

I 戦略プロジェクトについて

1 戦略プロジェクトとは何か

平成27年度からスタートした総合計画の基本目標*¹を達成するため、各分野の29施策*²において、それぞれ取組を推進していく一方で、未来に向け、特に重点的・施策横断的に取り組む必要のある課題に対応するため、施策単位での取組を連携させながら事業実施の効果を高め、課題を解決し、基本目標の達成や将来像の実現を目指していく必要があります。

このことから、本市の課題等を踏まえた、重点的・施策横断的な取組を「戦略プロジェクト」として展開します。

取組期間は、おおむね3年を目途に重点を置いた取組を進めます。

*¹ 基本目標

総合計画の基本構想に掲げている「目指す将来像」の実現のため、まちづくりの理念や方向性を表したもの

*² 施策

目指す将来像の実現に向けて取り組む課題を明確にするために、4つの基本目標の下に位置付けたもの。施策毎に目標値を設定するなどして達成度の評価を行います。

2 平成28年度戦略プロジェクト

◎ 子育て応援プロジェクト

若い世代や子育て世代が、希望を持って子どもを産み育てることができ、盛岡に住みたい、住み続けたいと思えるよう、さまざまな保育ニーズに柔軟に対応するための支援を行うなど、子育て環境を充実します。

また、子どもの健やかな成長の支援や育児不安の解消を通じて子育て世代を応援し、子育てにやさしいまち盛岡を実現します。

◎ きらり盛岡おでんせプロジェクト

歴史，自然，文化，先人，まち並みをはじめとする，本市の恵まれた観光資源を生かし，盛岡の魅力に触れ，満足してもらうため，新たな観光資源の開発や掘り起こし，ブラッシュアップを推進します。

また，北陸，北海道新幹線の開業をチャンスと捉え，盛岡のきらり光る魅力を発信し，更なる交流人口の増加と盛岡ファンづくりを推進します。

◎ いわて国体おもてなしプロジェクト

「希望郷いわて国体・希望郷いわて大会」に来盛する方々を「おもてなしの心」で温かく迎え，盛岡の魅力を全国に発信するとともに，すべての市民がスポーツに親しみ，スポーツを通じて健康でいきいきと暮らすことができるまちづくりを推進します。

また，ボランティアや市民協働による組織等が一体となって「希望郷いわて国体・希望郷いわて大会」を成功へと導きます。

Ⅱ 戦略プロジェクト評価について

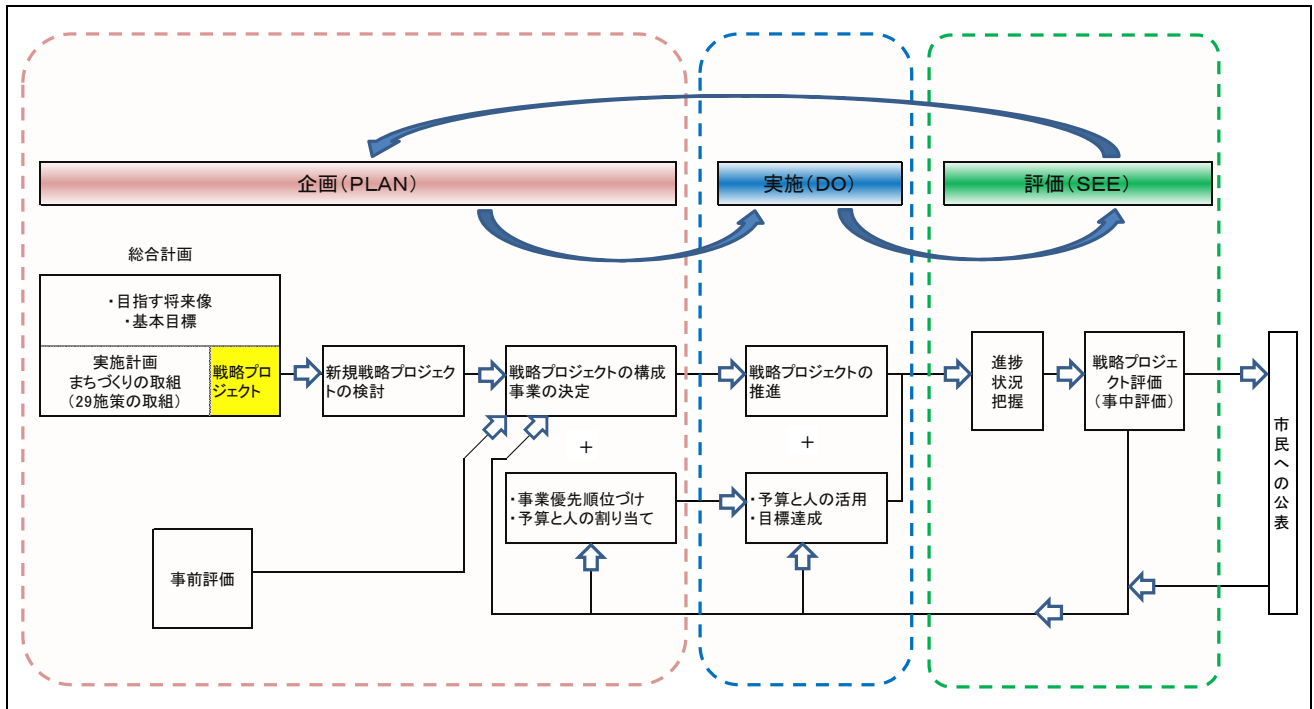
1 戦略プロジェクト評価は何のために行うのか

戦略プロジェクト評価は，各戦略プロジェクトの目的や目標がどこまで達成されたか等の視点により評価するものです。

また，戦略プロジェクトは，設定した取組期間内において目標を達成することが求められていることから，前年度の実績を踏まえながら当該年度の評価時点における進捗状況評価（事中評価）を実施することで，戦略プロジェクトの着実な推進を図ります。

2 どのような仕組みか

企画（PLAN）→実施（DO）→評価（SEE）の循環（マネジメントサイクル）を活用し、戦略プロジェクトの取組について振り返りを行うことにより、次年度以降の企画の立案や予算編成に反映させていく仕組みです。



3 評価結果を何に反映させるのか

戦略プロジェクト評価の評価結果は、今後の戦略プロジェクトの推進や構成事業の見直しに活用するとともに、予算の重点配分を従来の施策単位から、戦略プロジェクトの構成事業単位に変更したことから、戦略プロジェクトの期待する効果や意図実現に向けて特に高い効果が得られる事業に対し、重点的に予算を配分するなど、予算編成に活用することとしています。

【参考資料1：戦略プロジェクト評価シートの見方】

H28年7月作成

戦略プロジェクト評価シート (H28 事中評価)

戦略プロジェクト名	子育て応援プロジェクト		
主管部等名	保健福祉部	部コード	06
戦略プロジェクト統括マネージャー	保健福祉部長 村上 秀樹	内線番号	2500

戦略プロジェクトの中心事業を所管する部等の長を、「戦略プロジェクト統括マネージャー」としています。

Step 1 戦略プロジェクトの全体像

1 戦略プロジェクトの概要等（構成事業は別紙ロジックモデルシートのとおり）

戦略プロジェクトへの設定理由	生産年齢人口の減少が進む中、活力ある社会を築いていくため、若い世代にとって暮らしやすい、また女性にとって社会進出や子育てがしやすいなど、若い世代や女性が住み続けたいくなるまちをつくることが本市の重要課題となっている。
戦略プロジェクトの取組内容	若い世代や子育て世代が、希望を持って子どもを産み育てることができ、盛岡に住みたい、住み続けたいと思えるよう、さまざまな保育ニーズに柔軟に対応するための支援を行うなど、子育て環境を充実させる。 また、子どもの健やかな成長の支援や育児不安の解消を通じて子育て世代を応援し、子育てにやさしいまち盛岡を実現する。
重点取組期間	平成27年度～平成29年度
期待する効果	みんなで子育てを支えるまちになる
対象 <small>(誰(何)を対象として行うのか)</small>	小学生までの子を持つ親
意図 <small>(対象をどのようにしたいのか)</small>	子育てにやさしいと感じる人が増える。
目標指標	待機児童数 0人（平成29年度末）

戦略プロジェクトの取組期間は概ね3年を目途に進めていきます。

戦略プロジェクトを構成する様々な分野の事業を実施し、相乗的なつながりを生むことで「期待する効果」の実現を目指して行きます。

戦略プロジェクトの期待する効果の達成度を表す代表的な指標を「目標指標」としています。

Step 2 成果指標の推移

(↑：数値を上げていくことを目標とする指標、↓：数値を下げていくことを目標とする指標)

指標項目	単位	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度目標
A 待機児童数* (↓)	人	54 (H26.4.1)	9 (H27.4.1)	0 (H28.4.1)	—	0
B まちづくり評価アンケート調査「子育てをつらいと感じている」と答えた子どものいる親の割合 (↓)	%	19.2	19.3	22.0	—	16.4
C まちづくり評価アンケート調査「盛岡市の子育て支援策・支援活動が充実していると感じる」と答えた市民の割合 (↑)	%	17.0	15.5	13.3	—	30.2

目標値設定の基準年である25年度実績を記載しています。

目標指標とは別に期待する効果の達成度を表す成果指標を各戦略プロジェクトにおいて設定し、目標指標と併せて戦略プロジェクトの達成度等を検証しています。

*毎年4月1日現在の数値を用いている。

戦略プロジェクトの期待する効果や意図実現に向けて、成果指標の実績が設定している目標値に対してどのような水準なのか(現時点での実績値としては順調に推移しているのか)等、戦略プロジェクト全体の進捗状況について記載しています。

Step 3 戦略プロジェクトの進捗状況

待機児童の解消に向けて、私立幼稚園の認定こども園への移行支援、私立保育所の新設、入所円滑化による保育所定員の弾力化などに取り組んでいる。

また、平成28年4月には、妊娠期から子育て期にわたる総合的な相談・支援を提供するワンストップの相談窓口である「子育て世代包括支援センター」を保健所1階に設置し、保健師、助産師、社会福祉士を配置し、妊娠・出産・育児期における切れ目ない支援を行い、育児不安の軽減に取り組んでいる。

さらに、「子ども」をキーワードに、市民、団体、企業などが連携・交流できる場を提供するための「(仮称)子育て応援プラザ」の開所を10月下旬に予定するとともに、「子ども未来基金」を活用し、市民、団体、企業などが主体的に行う子ども・子育て支援活動に対し、助成を予定するなど、市の未来を担う子どもが健やかに成長することができる社会の実現を目指す取組みを進めている。

Step 4 市民ニーズの把握

まちづくり評価アンケートにおいて、「安心して産み・育てられる子育て支援の取組」に対して、半数以上が「とても重要である」と回答している一方で、現在の満足度を見ると、「とても不満」、「やや不満」と答える人の割合が「とても満足」、「やや満足」と答える人の割合を11.5ポイント上回っていることから、より一層の施策の推進が求められている。

戦略プロジェクトに関連する市民のニーズについて記載しています。

Step 5 成果・問題点の把握と改革改善案

1 成果の把握と要因分析及び課題の設定

(1) 戦略プロジェクトの中で特に成果をあげた点

ア 待機児童の解消

認定こども園等運営費給付事業において、平成28年4月までに4園の認定こども園と、3園の地域型保育事業実施施設が対象となっている。このことにより、前年より98人の入所児童数の定員拡大となり、また、認可保育所の新設等による定員拡大と合わせると、前年より合計で168人の入所児童数の定員拡大となり、待機児童数の減少に貢献している。

また、待機児童解消強化事業において、前年度以上に定員の弾力化に取り組んだ園に補助金を交付し、平成27年度は11園で入所児童57人分の待機児童数の減少に貢献するとともに、補助金を保育士の人件費として活用することで、保育士の確保に貢献している。

イ ワンストップの子育て相談支援拠点の設置

保健師、助産師、社会福祉士を配置した「子育て世代包括支援センター」を保健所1階に設置し、妊娠・出産・育児期における切れ目ない支援体制を整備し、開所から3か月で153名の来所があり、95件の妊産婦及び乳児家庭訪問を実施し、育児不安の軽減に取り組んでいる。

戦略プロジェクトを展開した結果、顕在化した成果について記載しています。

(2) 成果をあげた要因

ア 待機児童の解消

- ・ 保育事業を展開している事業者からの開設相談に応じ、開設時期を確認しながら、運営費予算の確保に努めたことで、新たな保育事業の展開につながった。
- ・ 待機児童が多い3歳未満児を対象とする小規模保育などの地域型保育事業の導入などの開設相談に応じ、保育事業に取り組む施設数を増加させることができた。
- ・ 前年度以上に定員拡大に取り組む保育園の協力が得られた。

イ ワンストップの子育て相談支援窓口の設置

- ・ 本庁舎2階の妊婦相談窓口で実施していた母子健康手帳の交付窓口を6月から子育て世代包括支援センターに一本化したことから、子育て相談、妊産婦及び乳児家庭訪問窓口のワンストップ化が図られ、多くの妊産婦の利用につながった。
- ・ 保健師、助産師、社会福祉士を配置したことで、専門的な見地から多様な相談に対応する子育て支援窓口として機能することができた。

1(1) で記載した顕在化した成果の要因について記載しています。

(3) さらに成果向上に向けて取り組むべき課題（課題がある場合に記載）

ア 待機児童の解消

国の定義による待機児童数は、平成28年4月1日時点で0人となったが、特定の保育所を希望するなどにより、保育所に入所できていない児童がいることから、さらに保育所等の整備が必要である。

1(1) 及び(2) において記載した顕在化した成果とその要因を踏まえ、今後さらに成果を上げるために取り組むべき課題を記載しています。

2 問題点の把握と原因分析及び課題の設定

(1) 戦略プロジェクトにおける現状の問題点（特に改善を急ぐべき点）

ア 待機児童の解消

私立幼稚園の認定こども園への移行や保育所の新設等により入所児童数の定員拡大を図るというハード面の取組は大きな効果を上げているが、その一方で、保育所の運営主体からは、保育士の確保に苦慮していること、特に経験のある保育士の確保が困難である旨の声が多く上がっており、どのような取組が可能か検討課題となっている。

イ 子育て世帯の孤立等による育児不安の解消

まちづくり評価アンケート調査「子育てをつらいと感じている」と答えた子どものいる親の割合が平成27年度で22.0%となっており、「盛岡市子ども・子育て支援事業計画」で掲げた平成31年度目標値の14.5%の達成に向けて、子育てに対する不安や負担を和らげる環境づくりが求められている。

戦略プロジェクトを展開した結果、特に改善を急ぐべき点・留意すべき点について記載しています。

(2) 現状の問題点が生じている原因

ア 待機児童の解消

- ・ 平成27年賃金構造基本統計調査によれば、保育士の給与等は、全職種の平均月額より10万円も低い状況であり、十分な給与水準に達しているとは言えない状況である。
- ・ 岩手県保育士・保育所支援センターでは、就労を希望する保育士が登録されているが、働き手の勤務時間と保育園が必要としている勤務時間が合わなかったりすることが多い。

イ 子育て世帯の孤立等による育児不安の解消

- ・ 少子化、核家族化が進んでいることにより、閉塞的な環境の中で子育てしている世帯が増加している。
- ・ 発達障害や貧困など、複数の困難を抱えている世帯が増加している。
- ・ 地域子育て支援拠点が不足している（現在10施設で実施）。

2(1) で記載した問題点が生じている原因を記載しています。

(3) 分析した原因を踏まえて取り組むべき課題

ア 待機児童の解消

保育士の確保に向けて、保育士が働き続けるために障害となっている処遇改善や、出産・育児との両立など、市として、職場復帰しやすい環境づくりの醸成に取り組む必要がある。

イ 子育て世帯の孤立等による育児不安の解消

子ども・子育てに関するニーズ調査結果では、「子育てや教育に関する相談相手や場所」として、「祖父母等の親族」「友人や知人」と回答した割合が約7割という一方で、「民生委員・児童委員」「NPOなどの子育て支援団体」「市役所の児童家庭相談窓口」などの地域で子育て支援に携わっている個人や団体、行政機関を相談相手に回答した割合は低かった。こうした結果から、地域や行政など多様な主体が、連携・協働して、今よりもっと近い存在として、気軽に何でも相談できる環境づくりが重要と考える。

2(1) 及び(2) で記載した問題点とその原因を踏まえ、改善するために取り組むべき課題を記載しています。

3 改革改善案（上記1(3) 及び2(3) で設定した課題に対する具体の取組）

(1) 待機児童の解消

保育士の給与水準の引き上げなど処遇改善について、国へ働きかけるとともに、保育士の資格を取得した若い世代が、市内の保育施設に就労しやすいような補助制度の検討、就労したい保育士と就労を希望する保育園とのマッチングなど、先進市の取組事例を参照にしながら、保育士の確保のための施策に取り組んでいく。

(2) 子育て世帯の孤立等による育児不安の解消

子育て世代包括支援センターにより、より多くの妊産婦等に対し、包括的な相談・支援を提供するとともに、地域子育て支援センター、つどいの広場、10月開所予定の「(仮称)子育て応援プラザ」など、気軽に子育て相談ができる場や子育て中の親が集える場を設置し、多様なニーズに対応できるようにすることで、育児不安の解消や子育てに対する負担感の解消を図っていく。

1(3) 及び2(3) で設定した課題について、具体的にどのような方法で実施し、課題解決につなげていくか、戦略プロジェクトの目的達成に向けた改革改善案について記載しています。

【参考資料2：戦略プロジェクトロジックモデルシートの考え方】

ロジックモデルシートは、各事業がどういった論理(ロジック)で戦略プロジェクトの期待する効果に至るのか、その過程を、数段階(直接の結果、一次成果、二次成果、三次成果・・・)に分割して表現しています。つまり、直接の結果から右へ順に、時間の経過にともなう成果の流れを表しています。

※ロジックモデルとは、達成したいと考える戦略プロジェクトの期待する効果に対して、各事業がどのような因果関係にあるのかを体系的に図示した流れ図のことであり、事象の構造を抽象して論理的に形式化した仮説です。ロジックモデルシートを作成するに当たっては、経験と事業実績に基づいて、「こうなることによりってこうなる、その結果こうなる・・・」という論理の流れを考えます。このような論理的な根拠を持ったより良い仮説を立てることが、より有効性の高い事業をつくりだすことにつながると考えています。また、毎年このロジックモデルを検証し、見直すことにより、「戦略プロジェクトの期待する効果」の達成を目指します。

ロジックモデルシート(H28事中評価)

戦略プロジェクト名	主管部名
-----------	------

事業名 事業概要等	活動	結果	目指す成果	戦略プロジェクト
【事業概要】 【H27事業費】 【H28事業費】 【事業担当課】 【実施内容】 【進捗状況】	事業の具体的な内容を記載します。	事業の対象者(受益者)、対象物が直接的に得られるものや行動を記載します。	対象者(受益者)、対象物の意識、行動や状態の変化を数段階に分割して記載します。 一番右側にきた成果が、戦略プロジェクトの目標、期待する効果を直接的に押し上げる成果になります。	<p>※ロジックモデルの例</p> <p>盛岡ブランドフォーラムを開催する → 盛岡ブランドフォーラムに市民等が参加する → 盛岡ブランドの認知度が向上する → 盛岡を好きだと思う人が増加する → 盛岡の価値や魅力を発信する人が増える</p>

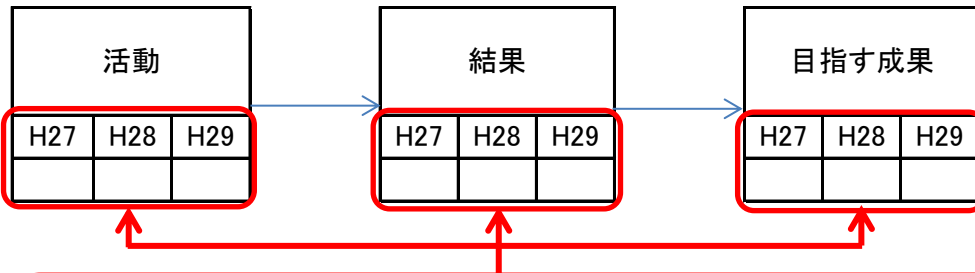
【参考資料3：戦略プロジェクトロジックモデルシートの見方】

【事業名・事業概要等】

戦略プロジェクトに構成されている全ての事業が記載されています。

【活動・結果・目指す成果】

- 1 活動…事業担当課のしごと(イベント, 行動, 技術・サービスなど)
- 2 結果…「活動」の対象が直接的に得るものや行動
- 3 目指す成果…「活動」で得られた利益や変化
(左から右へ1次成果, 2次成果, 3次成果…と段階を経て記載しています。)



- ・各年度の実績値を記載しています。(本評価ではH27及びH28の実績値を記載。)
- ・H28の実績値については、評価時点での実績値を記載しています。
- ・実績値を把握できない[結果], [目指す成果]については、実績値の記載欄はありません。
- ・その他詳細については、下記を参照してください。

【[活動]の実績値について】

- (1) H27 実績値について
⇒ H27 年度は事業を実施しなかった場合は、斜線を引いています。
- (2) H28 実績値について
⇒ 評価時点では、まだ事業を実施していない場合は、「未」と記載しています。
⇒ H28 年度は事業を実施する予定がない場合は、斜線を引いています。

【[結果]の実績値について】

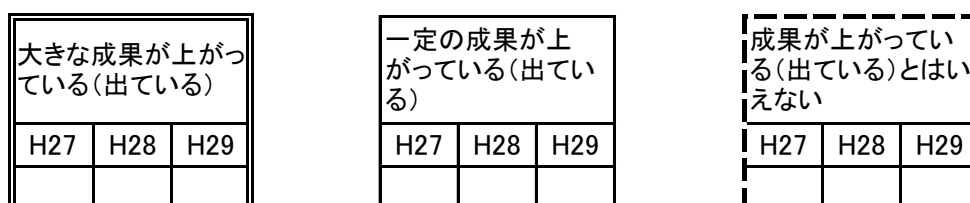
- (1) H27 実績値について
⇒ H27 年度は、[活動]が無かったため、[結果]も生じなかった場合は、斜線を引いています。
⇒ [活動]は実施されたが、[結果]が生じなかった場合は、「0」を記載しています。
- (2) H28 実績値について
⇒ 評価時点では、[活動]がまだ実施されていないため、[結果]も生じていない場合は、「未」と記載しています。
⇒ [活動]は実施されているが、[結果]が生じていない場合は、「0」を記載しています。
⇒ [活動]は実施されているが、[結果]の数値が把握できていない場合は、「未」と記載しています。
⇒ H28 年度は、[活動]が実施されないため、[結果]が生じない場合は、斜線を引いています。

【[目指す成果]の実績値について】

- (1) H28 実績値について
⇒ 評価時点では、まだ[目指す成果]の数値が把握できない場合は、「未」と記載しています。

【目指す成果の状況の表示について】

評価時点での[目指す成果]がどこまで上がっているかについて下記のとおり表示しています。
また、戦略プロジェクトの期待する効果や意図実現への貢献度が大きい成果(重点的に向上を図るべき成果)と考えるものについては「◎」をつけています。



【矢印の太さについて】

戦略プロジェクトの期待する効果や意図実現に特に貢献すると考える[成果]から[活動]までの流れ(特に重点化していきたい[成果]から[活動]までの流れ)について、矢印を太くしています。